

「村上春樹座談会」・今週の華道部作品（6）

令和3年10月4日

（村上春樹座談会）

10月4日（月曜日）放課後の16時40分から17時50分まで、本校の文芸部・図書委員会・新聞委員会の3つの部が合同して、「村上春樹座談会」という討論会を開きました。

文芸部員の進行のもと、各部の部員は、予め配られていた課題小説「品川猿」（村上春樹）について、意見を述べ合いました。「名前をなくすことはどんな意味があるのか?」、「松中優子はなぜみずきに名札を預けたのか?」、「土木課の桜田くんはこの小説に必要な人物だろうか?」等、答え



が様々に出てくるような進行役の投げ掛けに、参加者は皆、よく考え、適切な言葉を探しながら、真摯に発言していました。僕もゲストとして呼んでもらいましたが、なるほどと感心する発言が多く、とても楽しい時間を過ごすことができました。

この「村上春樹座談会」は、本校で初めての企画ではないかと思います。10月7日のノーベル文学賞受賞に弾みがついたかな。

（今週の華道部作品（6））

柳の曲線がアクセントになっていますね。緊急事態宣言が解除され、漸く部活動再開となりました。久々に華道部員の素晴らしい作品を鑑賞することができます。ありがとう。



グラジオラス・ガーベラ・柳・ドラセナ